

カラマツの挿し木による苗木生産

林業研究所

県内では近年、森林の伐採後の再造林樹種として、スギに比べ成長や木材価格で有利なカラマツの需要が高まっています。林業研究所では種子生産用に採種園を平成30年度に整備しましたが、種子の生産・販売は令和10年度からになります。そこで種子生産が可能になるまでの苗木需要に応えるため、北海道のグイマツで実績のある挿し木による苗木生産方法について、本県環境条件下のカラマツで検討した結果、有効であることが分かったので紹介します。

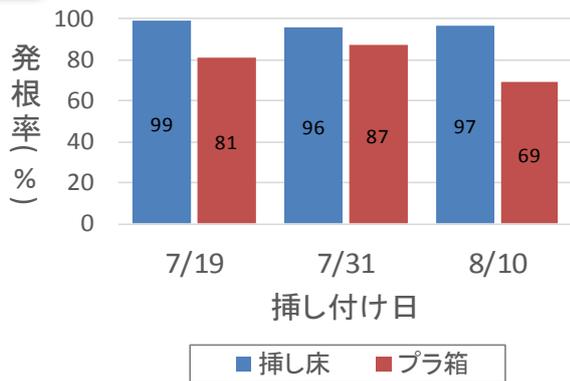
カラマツの挿し木の手順



- ① 1年生の実生苗（種子由来）を育成
- ② 7～8月頃に実生苗の下部から採穂
- ③ 穂木は基部が少し黄色化した7～9cm
- ④ 温室の挿し床（十和田砂等）に挿し付け
- ⑤ 用土を詰めたプラ箱でも可能※
- ⑥ 7～19時まで2時間おきに5分灌水

※プラ箱のビニールマルチ被覆による挿し木も可能

発根率と挿し木苗の様子



- ・挿し床では、ほぼ100%の発根率
- ・プラ箱では、灌水むらに注意が必要



- ⑦ 11月中旬の温室内の挿し床
- ⑧ 発根調査用に掘り取った挿し木苗
- ⑨ 越冬用の仮植（ビニールハウス）

実行上の注意点

- ◆ カラマツの挿し木の管理では、温度は $25 \pm 3^{\circ}\text{C}$ 、湿度は85%前後を保つようにする。
- ◆ 挿し木用穂木を採取する苗木には1年生実生苗を使用すること。2年生以上では生育が劣る。
- ◆ 挿し木は翌春に適正な床替・管理することで、秋には65%が苗木規格（30cm以上）に達する。

お問い合わせ

林業研究所 森林環境部 (Tel017-755-3257)